

xAPI Japan Profile 構成概要

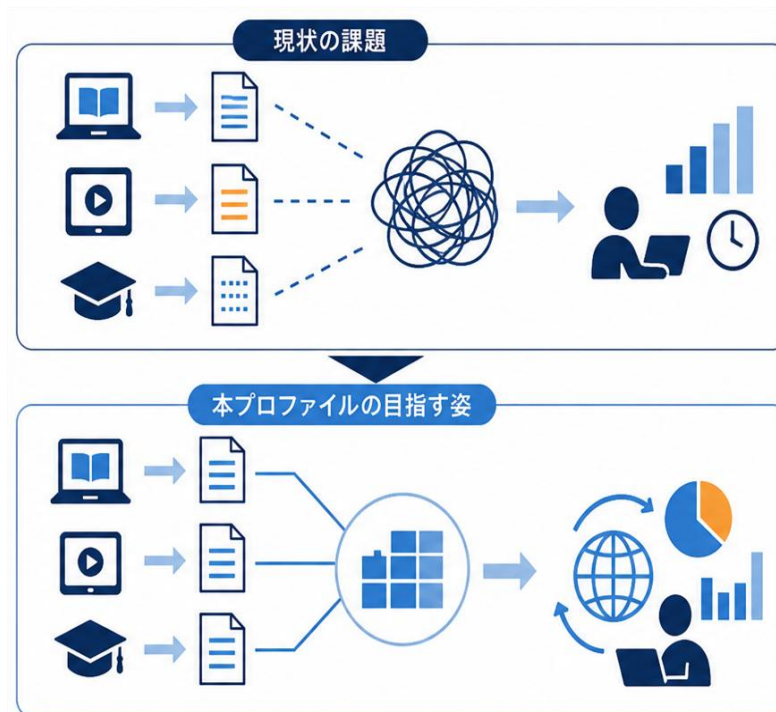
効率的な統合分析・利活用に資するスタディ・ログの記述形式の調査
研究（報告書）より

令和8年 10月

初等中等教育を対象に、事業者間で合意された統一的なログ記述形式により、教育データの円滑な流通と効果的な学習分析の実現を目指す

■ 背景：

- GIGAスクール構想により、多様な教育アプリ・学習管理システムからスタディ・ログを取得できる環境が整備
- 日本ではスタディ・ログをxAPIで記述する流れが定着した一方、ログに含める内容の詳細は事業者に一任されており、合意形成がなされていない。
- このままでは、事業者ごとに記述内容・粒度が異なるログが出力され、学校・自治体での統合分析の工数増大と専門性要求により、利活用が阻害される恐れ



■ 目的：

- 日本のK-12（初等中等教育）の現場に適合する形でスタディ・ログの記述内容を整理し、日本国内の事業者が共通して採用可能な統一的な記述形式を規定する。
- ベンダーロックインを防止し、異なる学習ツール間のログの統合分析を可能にする。

主要な学習ツール4種別について、記録すべき学習活動と語彙を定義

プロファイル	対象ツール	対象とする主な学習活動（主なverb）
 LMS Profile	学習管理システム・ 学習eポータル	課題の作成（created）・配布（shared）、実施開始（launched）・完了（completed）、閲覧（viewed）、異常終了（abandoned）、初期化（initialized）、免除（waived）、教員フィードバック（responded）
 Assessment Profile	CBT・ デジタルドリル	アセスメント開始（attempted）、問題への回答（answered：得点・回答内容・所要時間を詳細記録）、ヒント・解説等の参照（viewed）、終了（completed）
 ebook Profile	電子書籍型 デジタル教材	プラットフォーム起動（launched）・終了（terminated）、紙面表示（open）・非表示（close）、ページ移動（viewed）、しおり作成（bookmarked）、書き込み（annotated）
 Group Learning Support Tool Profile	協働学習 （グループワーク） 支援ツール	共有成果物へのコメント（replied）、 スタンプ・いいね（voted-up）

仕様書の共通章構成

1.本プロファイルについて：

位置づけ・目的・前提条件・定義範囲

2.メタ情報：

プロファイル自体の識別子・バージョン情報

3.Concepts：

使用するActivityType・Extensions等の定義

4.ユースケース：

対象ツールの特性と主な学習活動の整理

5.StatementTemplate：

基本仕様＋記述規則（Rules：必須/推奨/任意）

教育的有効性と運用上の懸念という観点

- 可視化されたスタディ・ログ（ダッシュボード等）は、児童生徒の理解や指導改善に役立つと思うか。どのような情報が表示されると役立つか。
- 本プロフィールが対象とする学習行動（課題の実施状況、ドリル・テストの解答、デジタル教材の閲覧・書き込み、協働学習でのコメント・リアクション）のうち、指導上特に把握したいものはどれか。把握したいのに含まれていない学習行動はあるか。
- スタディ・ログの活用にあたり、学校現場の運用上の懸念（業務負担、評価への利用に対する不安、児童生徒のプライバシー等）は何か。
- ダッシュボード等での活用にあたり、期待すること・必要な支援は何か。



自治体でのデータ利活用・ガバナンスという観点

- 自治体内の複数システム間でのスタディ・ログの一元的な把握や、転校・進学時のデータ引き継ぎに、本プロファイルは有効だと思うか。適用にあたっての課題は何か。
- 個人情報保護・データセキュリティに関するガイドラインとの整合性の観点での懸念や必要な整理は何か。
- 調達仕様等で標準への準拠を求める場合、どのような記載・資料・支援があれば活用しやすいか。
- 自治体としてスタディ・ログ利活用を進める上で、標準化に期待すること・障壁となっていることは何か。



実装可能性と仕様の過不足という観点

- 既存システムからのxAPI Statement出力について、本プロファイルに沿った実装は現実的か。開発・改修コストや技術的障壁はあるとすれば何か。
- 定義されている語彙（verb・ActivityType・Extensions）に過不足はあるか。
【不足がある場合は、用途と併せて対案（追加すべき語彙・IRI）をご提示ください】
- StatementTemplateの記述規則（必須／推奨／任意の区分）の粒度は適切か。
【実装の妨げになる規則があればご指摘ください】
- actorの記載方針（ADL仕様準拠／相互運用標準モデル準拠の併存）について、実装上の意見
- 学年・教科・学習指導要領コード等のメタデータ記録枠をプロファイルに規定した場合、実装への影響（コスト・データ保有状況）は何かあるか。
- 自社サービス固有の拡張プロファイルを設計・運用する場合、ガイドとして必要な情報は何か。

